あなたにできること、きっとある。

もっと知りたい、里親のこと

こどもを迎え入れるまでの4ステップ

Step1 相談
児童相談所や
里親支援機関に相談を。
里親の条件や
手続きなどを説明します。

Step2 研修・家庭訪問
児童養護施設や
乳児院などでの実習を含む
数日間の研修と、
家庭環境の調査があります。

Step3 登録
都道府県等の
審査を経て、
里親として登録されます。

Step4 交流
面会や数時間の外出、
宿泊などで、
こどもと一緒に
過ごします。

こどもを家庭に迎え入れる

養育に必要な費用が支給されます

こどもを育てるために必要な生活費、教育費、医療費などが支給されるので、安心して養育できます。

里親手当 1人あたり **9万円/月**
※養育里親の場合。

＋

生活費 乳児 **約6万4千円/月** 乳児以外 **約5万6千円/月**
※その他、教育費や医療費、防災対策費なども支給されます。

里親 Q&A

Q 特別な資格が必要なの?
A 所定の研修を受け、こどもに適した住環境があるなどの要件を満たしていれば、特別な資格は必要ありません。保護を必要とするこどもに寄り添い、あたたかい愛情と正しい理解をもって接することができれば大丈夫です。

Q 共働きでも大丈夫?
A 基本的に問題ありません。ただし、こどもの養育に支障がでる場合は調整が必要なこともあります。

Q 実子がいても里親になれる?
A なれます。実のこどもに里親になることを伝え、理解を得たうえで、新しい家族を迎えるのが理想です。実のこどもの年齢や性別を考慮して、委託するこどもを決めることもあります。

里親制度について知りたい
朝日新聞デジタルサイト 広げよう「里親」の輪
https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/

里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所
【相談専用ダイヤル】0120-189783（いちはやくおなやみを）

こども家庭庁 里親制度

全国 里親会

日本 ファミリーホーム 協議会

児童相談所 一覧

世界名作劇場
赤毛のアン

いま、あなたを必要としているこどもたちがいます。

「いつか」を「いま」に。いま、里親になろう!

© NIPPON ANIMATION CO., LTD. "Anne of Green Gables" ™AGGLA

あたたかな家庭を心から願ったアンは、マシュウとマリラに出会い、二人の愛情に包まれながら、自分らしく豊かで幸せな人生を歩みます。

いま、日本には親と離れて暮らすこどもたちが、約4万2千人います。「里親制度」は、そうしたこどもを自分の家庭に迎え入れ、必要な生活費や養育に関する相談など、さまざまなサポートを受けながら育てる制度です。
こどもの成長には、となりで応援してくれる大人が必要です。こどもたちの力になれるのは、あなたです。

里親制度について知りたい
里親制度について知りたい方は二次元コードで特設サイトへ
～里親制度の疑問に答えています～
朝日新聞デジタルサイト 広げよう「里親」の輪
https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/

里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所
【相談専用ダイヤル】0120-189783（いちはやくおなやみを）
【インターネット】 全国児童相談所一覧 検索

こどもまんなか
こども家庭庁

里親 Story（ストーリー）

日本には、さまざまな理由により親と暮らすことができないこどもたちが約4万2千人います。
こどもたちの心のケアと健やかな成長には、家庭に迎え入れられ、自分が愛されていると実感できることが大切です。
こどもが置かれた状況に一つとして同じケースはないからこそ、里親にまつわる物語も十人十色です。

Case 1 「うちの仲間にならない?」寂しかった心に、里親の言葉が響いた

小賀坂小春さん

生後まもないころから過ごしていた乳児院で、齋藤直巨（なおみ）さん（※以下、なおさん）、竜（りょう）さん夫婦と出会いました。「もし仲間になってもいいなと思ったら教えてね！」。3歳の小春さんは「わたし、仲間になる！」と決めました。

2人の姉も受け入れてくれ、うれしい反面、不安も。「こんなに楽しい家族の中に自分がいてもいいのかな、本当に愛してくれているのかな」

愛情を試すような言動を繰り返し、小学4年生のときに家出をします。「習い事に行くときに持たせてもらった“もしものとき”用のお金を使い果たし、なおさんに叱られたんです。許してもらえたのですが、『本当に許してもらえたのか?』って。姉とのケンカもあり、家出してしまいました」

友達の家を訪ねたところを保護され、「『あんた、どこ行ってたの!?』と涙を流して叱るなおさんから、姉たちも心配して探していたと聞き、ものすごく反省しました。家出をきっかけに、自分はこんなに大切にされているんだなと思い、家族を試すような言動も減っていったと思います」

数年前に、実親と面会しました。「実家族は仲も良く、どうして自分は一緒にいられなかったんだろうとモヤモヤしましたが、『モヤモヤもネガティブな気持ちも全部小春の大事な気持ちだから、そのままでいいんだよ』となおさんたちは受け入れてくれました。家族って血のつながりではないんですよね。自分が安心できる場所に信頼できる仲間がいる、それが家族なんだと思います」

こがさか・こはる／2006年生まれ、東京都在住。生まれてすぐ乳児院に預けられ、3歳から里親家庭で育つ。2021年に実親と対面し、実名で活動する許可を得る。現在、里親家庭で暮らす委託児童や実子を支援する一般社団法人グローハッピーが主催する「こども会議」のこども委員、ファシリテーターを務める。

Case 2 里親家庭の「実子」から「里親」へ 大切なのはひとりひとりに向き合うこと

元藤 透さん

障害者福祉の仕事に従事している両親のもと、5人きょうだいの末っ子として生まれました。両親はいつも困難な状況の方々を支援していて、家族以外のこどもが家に滞在していることが自然な環境で育ちました。とはいえ、思春期のころには「なぜここまで、体を酷使してまで尽くすのだろう」と反発を覚えることもありました。

考えが大きく変わったのは、ある男の子と出会ってからです。一時保護されていたその子は人を寄せ付けず、うつろな目をしていました。母が抱っこしようとしても、逃げるように後ずさりして……。心の傷を感じさせるその姿に「この子には幸せになって欲しい」と強く感じました。

我が家にやってきたその子に、両親は特別なことをしたわけではありません。温かいごはんを一緒に食べ、泣いたら抱っこして温かい言葉を。こどもが意見を言うときは、尊重する。みるみるうちに笑顔が増え、甘えるようになったその姿に「こんなに尊いことはないな」と、里親を志すようになりました。

いまは実子から里親の立場になり、こどもたちと暮らしています。心がけているのは、ひとりひとりの何げない表情や言葉を丁寧に見て向き合い、いま何を感じているのかを知ろうとすることです。いま、里親になることを考えている人のなかには実子がいる人も、将来実子が生まれる人もいると思いますが、こどもの気持ちを大切にするということは、実の子だろうと血のつながらない子だろうと、変わらず大事なことなのではないかと思います。

もとふじ・とおる／1988年生まれ。ファミリーホーム（※）「元藤ホーム」養育者。里親家庭の実子として育つ。2012年に自身も養育里親として登録。
※里親家庭を大きくした事業。里親や乳児院・児童養護施設職員経験者の自宅等で補助者も雇い、より多くのこどもを養育する

Case 3 頑張りすぎなくていい、楽しいことを共有していこう

野口啓示さん 婦美子さん

児童養護施設の分園として「野口ホーム」を始めました。たとえ血がつながっていなくても、施設を出て行ったこどもたちの“実家”になれればいい――。そんな思いで始めました。

子育ては、決して楽しいことばかりではありません。しかし2人は冷静に、粘り強くこどもに向き合ってきました。ある中学生の女の子は、啓示さんとだけまったく口をきかないように。「何回か『俺が悪いところがあったら直そうか』と歩み寄りしましたが、しゃべらない理由を聞いても『自分で考えたら』としか言われなくて。普通にしようと決めて、返事がなくても話しかけていました」（啓示さん）。それから約3年後のある日、高校生になった女の子は「ごめんなさい。普通に行ってらっしゃい、おはようと言ってくれたからうれしかった」と胸の内を明かしてくれました。

「昔はしつけをきちんとして、勉強もさせなあかんという感じで関わっていました。いまは、それよりも『楽しいことを共有したらいいんじゃないか』と考えています。なんでも“きちんと”は難しい。頑張り過ぎなくていいんじゃないかな」（啓示さん）。「（里親を迷う人は）やらずにいると不安ばかりが募るので、やってみたらどうでしょうか。週末里親でもいいし、養護施設のお祭りに行ってみてもいいんです。たとえ里親にならなかったとしても、自分に合ったスタイルで社会的養護を必要とするこどもに関わったり、理解したり、思ったりしてくれればと思います」（婦美子さん）

●のぐち・けいじ／1971年、大阪市生まれ。NPO法人「Giving Tree」理事長。福山市立大学教育学部教授。●のぐち・ふみこ／1964年、兵庫県宍粟市生まれ。NPO法人「Giving Tree」事務局長。夫妻は2003年に神戸市の社会福祉法人「神戸少年の町」の分園として「野口ホーム」の運営を始め、2016年にファミリーホームに移行。分園時代から現在までに、19人のこどもを養育してきている。2017年に、里親やこどもたちを支援するNPO法人「Giving Tree」を設立した。

Case 4 短い時間でも、こどもにとっては宝物 佐藤浩市さん・亜矢子さん夫妻が続ける「フレンドホーム」というつながり方

佐藤浩市さん 亜矢子さん

乳児院や児童養護施設のこどもたちを週末や休み期間に預かる「フレンドホーム（東京都の制度の名称）」を、5年以上続けています。児童養護施設のこどもたちとふれあうボランティアをやっていた亜矢子さんが、自室に引きこもりがちの女の子がいると知ったことがきっかけでした。「家庭で過ごすことで、少しでも元気になってもらえたら」

女の子は、なかなか普通の声で話すことができませんでしたが、じっくり向き合い、見守ることにしました。「あいさつもできるようになって。笑顔が見られたときには、喜びを感じましたね」（浩市さん）

料理をしたり、花を生けたり。休日を一緒に過ごした後は、施設へ送り届けます。「お別れするまでの30分間、車中での時間を彼女がとても大事に感じていてくれるというのが伝わってきて、僕もその空気感が好きで。教えてもらったことがいっぱいあったなあと振り返って」（浩市さん）

「週末だけ、お休みのときだけでも、家庭生活を送ることはこどもの未来に変化を起こすと思います。里親制度をぜひ知ってほしいです」（亜矢子さん）

「責任はあるから、背伸びは必要なんです。でも、ずっと背伸びしていたら相手も疲れてしまいますよね。あるとき背伸びをやめてかかとを落としたら、背伸びしていたときと見える景色が同じだったんです。僕がこどもと関われたからなんだと思っています」（浩市さん）

さとう・こういち／1960年、東京都生まれ。19歳で俳優デビュー。日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ、数々の賞を受賞。
さとう・あやこ／舞台女優として活動後、1993年に結婚。2014年より児童養護施設のこどもを支えるボランティアを始める。

里親が育てる。社会が支える。
フォスタリングマークは、里親普及のためのシンボルマークです。

フォスタリングマークについて
里親制度を広めるとともに、里親家庭を社会で支えるための支援の輪が広がることを願って作られたシンボルマークです。

特設サイト公開中！
朝日新聞デジタルサイト 広げよう「里親」の輪
https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/